

解 答

一 (a) 招 (b) 雑誌 (c) 印刷 (d) 額

二 才

三 父母からじゃま扱いされ、家の内外に自分の居場所がないと感じていたが、その所在なさをまぎらわすことができるから。

四 最初 客のほうも 最後 うだった。

五 自分や息子と同じように漁師になること。

六 シライさんの写真の中の、はげていない祖父の写真を祖父に見せたら、と考えた時、もう見せることはできないのだとわかり、頭では理解していた祖父の死を、身をもって実感したから。

七 漁師を継ぐのはいやだと文句を言い、漁師らしい雰囲気もなかった十二年前の父の姿と、生まれついての漁師というような顔をして、今の生活が板についている現在の姿とのギャップ。

八 漁師になることを望んでいた祖父の思いを、少年が実感し、自らの意志で漁師を継ごうと思うようになること。

九 工

十 タオルにより、祖父を地元で一番の腕をもつ漁師と象徴できるという見方。

十一 1 祖父の死の実感がわからず涙も出なかったが、シライさんが現れ、祖父の昔の写真やはがきを見せてもらっているうちに、少しずつ祖父が死んだという実感がわいた。まわりのみんなが祖父を過去の人として語っていることをさびしく思ったが、涙は出ないで悲しくなった。漁師だった祖父の象徴であるタオルを巻いたとき、強く祖父の死を意識して悲しくなって、思わず涙があふれ出た。

2 はじめはJリーガーになりたいとあこがれ、漁師を継ごうとは思わなかったが、自分には祖父の漁師としての血が流れていることを自覚した。そして少年に、父や祖父のように、漁師として海で生きていこうと真剣に考える気持ちが芽生えた。あこがれから地に足をつけた生き方へと精神的に成長した変化を表している。